



今年度の卒業式での、太田昌利校長による式辞の一部を紹介させていただきます。

第74回卒業式

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。心から、お祝いいたします。
保護者の皆様、お子様の御卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。
～ 中略 ～

さて、令和二年目の卒業生となる皆さん。卒業にあたり、皆さんに伝えたいことは、たくさんありますが、今日は要点を絞ってお話ししたいと思っています。

皆さんとはじめて出会ったのは去年の始業式です。その後、二か月間の臨時休業となり、今まで当たり前のようにあった学校生活が送れなくなりました。

部活動の様々な大会やコンクールがなくなり、体育大会の短縮、校内での合唱コンクール、一泊二日の修学旅行など、例年とは違う学校生活を送らざるを得ない日々となりました。しかし、皆さんはコロナに負けず、精いっぱい最後の中学校生活を送ってくれました。「誠実」の校訓のもと、制約が多かった学校生活に真剣に取り組む皆さんの姿から、ウィズコロナの新たな伝統にふさわしい、確かな足跡を感じ取ることができました。

本日、義務教育を修了される皆さん。今まで皆さんは、保護者の方や地域の方から守られる、支えられることが多かったと思いますが、義務教育を終える今、これからは皆さんが、保護者や地域を支える立場になります。皆さんが育った家庭やこの地域、共に学んだ友達、そして、鳴海中学校での思い出を、いつまでも誇りにして自信をもって前に進んでほしいと思います。明日から進む道は、一人一人、違ってきますが、皆さんの旅立ちに際して、2つのお願いをしたいと思います。

一つ目は、「夢をもち続けてほしい」ということです。先日、卒業を前に、皆さんと面接の機会をもちました。その場で皆さんの「将来の夢」を聞かせてもらいました。

「高校へ行ったら今までやったことのない新たなことに挑戦したい」「プロの選手を目指して部活動で頑張りたい」と、高校生活に対する夢を話してくれた人。

「看護師や保育士など、人の役に立つ仕事をしたい」「大好きな英語を生かして、世界で活躍したい」「美容師になるために、資格を取りたい」など、将来の仕事に対する夢を語ってくれた人。

「将来の夢」は人それぞれ異なっていましたが、一生懸命に「夢」を語る姿を見てみると、その実現を願わずにはいられませんでした。

夢の中身や夢の大きさが大切なのではありません。夢をもち続け、夢の実現に向けて、日々努力することが大切です。当然、夢は成長と共に変わっていくこともあります。大切なことは、「夢をもち続けていく」ことです。

二つ目は、「感謝の気持ちをもって生きてほしい」ということです。面接の際、「尊敬する人は誰ですか」と尋ねたところ、保護者のお名前を答える人が多かったです。そして、その理由を聞くと「自分のために、毎日朝早くから、夜遅くまで働いてくれる」「仕事で忙しい時も、嫌な顔もせず、家事をしてくれる」など、皆さんの正直な気持ち、保護者への感謝の気持ちがあふれていました。

卒業生の皆さん、日頃は照れくさくて、なかなか言えない感謝の思いを、ぜひ、自分の言葉で保護者の方に伝えてほしいと思います。

「夢をもち続けること」と「感謝の気持ちをもって生きること」、この二つのことを忘れずに、これからの人生を歩んでほしいと思います。

いつまでもなごりは尽きませんが、鳴海中学校は、皆さんにとって、「われらの母校」です。いつまでも、皆さんを応援するとともに、成長を見守っています。

卒業生の皆さんの前途に、幸多きことを祈念し、式辞といたします。